

銅・アルミ

市況見通し

11月



橋本アルミ取締役 橋本 健一郎氏レポート

銅

9月の伸銅品生産は同5・5%減の5万6900ト、うち国内前年同月比で1・1%増の9000ト、うち国内

減の6万7066トで、4カ月連続で減少した。内需は同0・2%減の5万5959ト、輸出が同4・4%減の1万1107ト、銅条が同0・2%減の2万2450トとなり、いずれも4カ月連続のマイナス。資源確保は同4・8%減の1万4689トとなり2カ月ぶりのマイナスだった。

9月の銅電線生産は同5・5%減の5万6900ト、うち国内

LME銅セツルメント	5800~6400¢	変わらず
電気銅建値	700~770円	変わらず
為替(1¢)	111~114円(1カ月間T.T.M)	変わらず

が同3・9%減、輸出が同36・8%減だった。銅輸出は、電気銅が同1・9%増の4万9895ト、銅スクラップが20%減の2万37

銅スクラップ 景況予想

銅輸入は、電気銅が同84・2%減の372ト、銅スクラップが同5・7%減の9484トだった。

LME・為替予想

今月は米中間選挙と米中貿易戦争の動向に左右される。米中間選挙の各種世論調査結果では、上院は共和党が過半数を維持する公算。下院では民主党が多数派を奪還する勢いで、おのれ議案になる可能性が高い。

電気銅建値は10月月初の75万円から一時77万円まで上昇した後に73万円まで下落、現在76万円まで回復した。このため流通在庫は多少出てくるだろうが、問屋の在庫は在庫は連値80万円時のもと言われており、市中に出回っていないのでは？需要の重案作成を要請したとの報道がある。米中貿易摩擦の解決に向け、何らかの妥協策が出てくるのではないかと

アルミ

9月の伸銅品生産は同5・5%減の5万6900ト、うち国内前年同月比で1・1%増の9000ト、うち国内

LMEアルミ現物後場買い	1900~2100¢	変わらず
スクラップ	マイナス5円~0円(前月最終価格より)	変わらず
為替(1¢)	111~114円(1カ月間T.T.M)	変わらず

計で同4・2%減の16万3192トで9カ月連続の減。アルミニウム2次合金・同合金地金生産は同2・8%減の8万8174トで12カ月の輸出はアルミ新地金が同8・5%減の151ト、二次合金が同9%減の1640ト、スクラップが同15・4%減の7458ト、

アルミ仕が同21・3%減の6286ト。9月の輸入はアルミ新地金が同11・6%減の10万6115ト、二次合金が同11・6%減の8万9683ト、スクラップが同2・9倍の1461ト、合金スクラップが同14%減の2672ト。

流通在庫は相変わらずで、中国境の下落を受けてスクラップも連落して下落している。売れ玉があるのでは？各種需要は安定し、台風による荷止め被害なども治まったようだ。

LME予想

今月は米中間選挙と米中貿易戦争の動向に左右される。

工業 5年で顧客数10倍目指す 菊川 オーダー金属建材以外の柱創出

建築物の金属製内外装工事を手掛ける菊川工業(社長・宇津野嘉彦氏)は、このほど、既存事業の顧客数を10倍に増やすことを目指す。オーダー金属建材以外の柱創出を、現在、最優先に左右に

9割以上を占めているため、事業の多角化を進めてバランスの取れた事業形態にシフトさせたい考え。

9割以上を占めているため、事業の多角化を進めてバランスの取れた事業形態にシフトさせたい考え。

非鉄月間市況

10月

関西地区

なごりが影響し、軟弱だ落した。アルミ地金は月初

去最高値。貿易摩擦懸念の後退などが材料戻したという印象、と



ボツワナで探査技術セミナー

12ヵ国から約20人参加



技術開発